

日本の大学に通う学生は 人生に満足しているのか？ —アジア圏の大学生の国際調査を通して—

経営学部3年 東館 環
経済学部2年 戸崎 瞭

目次

1. 動機

2. 先行研究

3. 仮説

4. 調査内容

5. 調査結果

6. 考察

7. 結論



1. 動機

1-1. 研究テーマ:ウェルビーイング

今年のテーマはウェルビーイング

- ・SDGsについて学びを深めた昨年に主催した講演会から「ウェルビーイング(well-being)」という言葉がきっかけ

- ・辞書をひくと、ウェルビーイングとは健康で幸福な状態

(引用:大辞林スーパー辞典)

→調べるとより理解が困難になったため、文献調査を開始

1-2. 表題について

日本の大学に通う学生は人生に満足しているのか？
ーアジア圏の大学生の国際調査を通してー

- ・アジア圏の大学生で比較した時、日本の大学に通う学生が人生に満足しているのか調査
- ・研究テーマのウェルビーイングという単語は定義が複数あったので(先行研究で説明)表題に含めなかった



2. 先行研究

2-1 . ウェルビーイングの定義

文献によってウェルビーイングの定義が異なる

- 自分の状態や人生に対する評価や心理的安寧
(安寧: 社会が穏やかで平和なこと)

(内田由紀子「これからの幸福について」より)

- 身体的、精神的、社会的にも「良い状態」のこと

(厚生労働省 [000467969.pdf \(mhlw.go.jp\)](https://www.mhlw.go.jp/stf/seisakunitsuite/syuken/syokugou/syokugou000467969.pdf) より)

- 個人や社会が経験するポジティブな状態のこと

(WHO [Promoting well-being \(who.int\)](https://www.who.int/promoting-well-being) より)

2-2. ウェルビーイングの測定

定義は複数あるので測定できない

→測定する場合は定義を決める必要がある

・今回は厚生労働省の定義(身体的、精神的、社会的にも「良い状態」のこと)を用いる。

理由

身体的に健康な人、精神的に安定している人、社会的に恵まれている人は幸福度が高い傾向 ([佐々木健吾.indd \(ngu.ac.jp\)](#)より)

2-3. 文化間の考慮すべき点

ウェルビーイングの測定結果を比較することにおいて

ウェルビーイングは文化や価値観にも影響されるため、
測定結果だけに注目すると正確な情報を得られない可能性がある

→理想像が文化によって変わってくるため

欧米: 若く健康で、高収入、外向的等

東洋: 置かれている状況になじむこと等

2-4 . 調査の動機(文献調査を経て)

問題提起

アジア圏に限定して比較したとき、日本のウェルビーイングは高いのか、低いのか

背景

- ・ウェルビーイングに関する研究が欧米の価値観をもとにつくられているため、アジアの数値が正しく測定出来ない場合がある
- ・アジアだけで比較した際の日本の状況を示す研究が見当たらなかった



文化的背景に共通点の多いアジア圏で調査を行いたい



3. 仮説

3-1. 今回用いた先行研究

生活満足度判定におけるポジティブおよび ネガティブな感情の役割 —国を越えて—

著者: Peter Kuppens、Anu Realo、Ed Diener
発行年: 2008年

(引用: <https://scottbarrykaufman.com/wp-content/uploads/2019/01/Kuppens-et-al.-2008.pdf>)

3-2 .用いた尺度

人生満足度尺度(SWLS)をウェルビーイングを測る尺度として用いる理由

①心理学の教授であるEd Dienerらが開発

→人生満足度尺度について、他の論文でも研究している

②期間をあけて実施した時の再現性が高い

→4年後に行っても、同じような結果が得られた

③多くの研究で用いられている

→1993年に論文を発表してから多くの研究で用いられている

3-3. 先行研究より

目的

- ・ポジティブな感情やネガティブな感情を感じる頻度とその人にとっての「良い人生」がどのように人生満足度尺度に関係しているか

調査内容

- ・46カ国、8,557人を対象に、各国の言語に翻訳して行った

調査結果

- ・文化が人生満足度尺度に大きな影響を与えることが分かった
- ・「個人主義」か「集団主義」、「生存価値」か「自己表現価値」かによって文化に違いが出て、人生満足度尺度にも差が出る

3-4. 先行研究から明確になったこと

①「個人主義」「集団主義」

「**集団主義**」よりも「**個人主義**」の方が人生満足度尺度が高い

理由

- ・「**個人主義**」の社会では、良い気分である事が理想像

→否定的感情を排除しようと懸命になる＝マイナスの感情を感じる頻度が少ない

- ・「**集団主義**」の社会では、対人関係の調和が必要

→否定的感情を経験することも大切＝マイナスの感情を感じる頻度が多い

3-5. 先行研究から明確になったこと

②「生存価値」「自己表現価値」

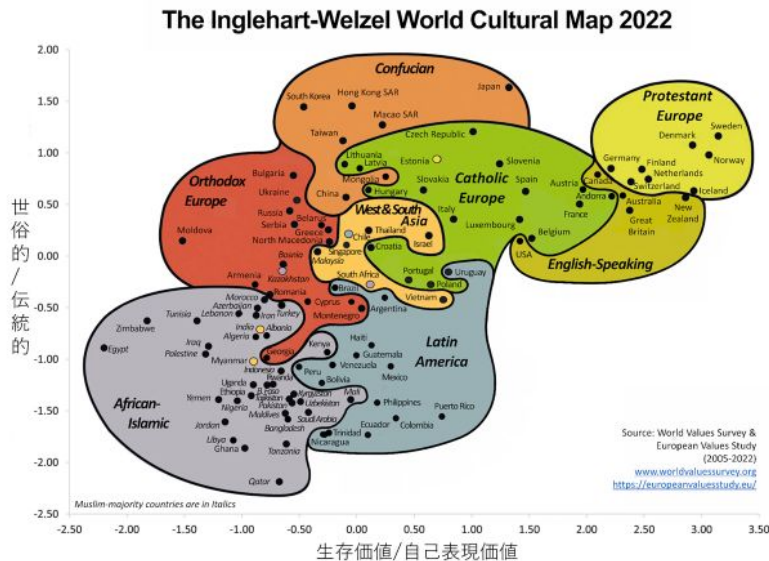
「生存価値」よりも、「自己表現価値」に重点を置く方が
人生満足度尺度が高い

理由

- ・「自己表現価値」を重視する国は、経済的に潤っている傾向がある
- ・あくまでも傾向であり「経済状況≠人生満足度尺度」
- ・経済状況が良好でも「自己表現価値」の低い国もある

3-6.今回用いる指標

イングルハート・ヴィルゼル文化地図

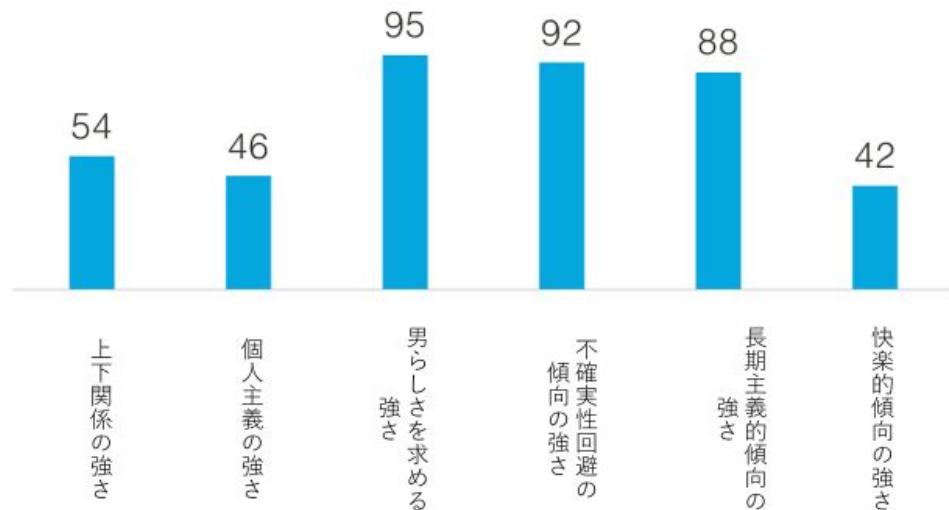


- ・文化的な価値観を測る指標
- ・横軸で各国の「生存価値」と「自己表現価値」が分かる
- ・縦軸は「世俗的」か「伝統的」かを表している
- ・先行研究でも用いられていたため使用

(引用: <https://www.worldvaluessurvey.org/WVSNewsShow.jsp?ID=428>)

3-7.今回用いる指標

ホフステッド指数



- ・国民性を測る指標
- ・「個人主義」か「集団主義」かを読み取れる
- ・6つの項目で構成されている
- ・先行研究でも用いられていたため使用

(引用: [国別比較 - ホフステッドインサイト \(hofstede-insights.com\)](https://hofstede-insights.com))

3-8.結果の予測

表題:日本の大学に通う学生は人生に満足しているのか

→対象国と比較して、日本の人生満足度尺度は高くなる

理由

①対象国の中では、個人主義傾向にあるから

②対象国の中では、自己表現価値が高いから

③英語が理解出来る学生を対象としているから言語による

誤差がうまれない(①と②の予想が正確に結果へと反映される)



4. 調査内容

4-1. 調査対象

アジア圏の英語が理解できる大学生に調査を行った

理由

- ①先行調査の動機より、アジア圏に限定
- ②質問文が英語である為、正しく理解する力を要求
- ③回答の協力を得やすい大学生を対象にすることで、調査集団のばらつきを抑えた

4-2. 調査対象

- ・調査対象となった各国の大学

ベトナム 外国貿易大学

インドネシア ビヌス大学

カンボジア 王立プノンペン大学

日本 上智大学

4-3. 調査方法

・依頼方法

各大学の代表者に調査内容について英語で説明したWordファイルに、Google Formを追加したものを送付

・調査期間

約2週間の回答期限

・目標の回答数

各国、30までの回答

4-4. 質問内容

1. ほとんどの面で私の人生は私の理想に近い。
2. 私の人生の状態は優れている。
3. 私は自分の人生に満足している。
4. 私が人生に求める大切なものはこれまでに得てきた。
5. もう一度人生をやり直すとしても、ほとんど何も変えようと思わないだろう。

4-5. 回答のスコア化

先行研究と同様、本研究もスコア化をする

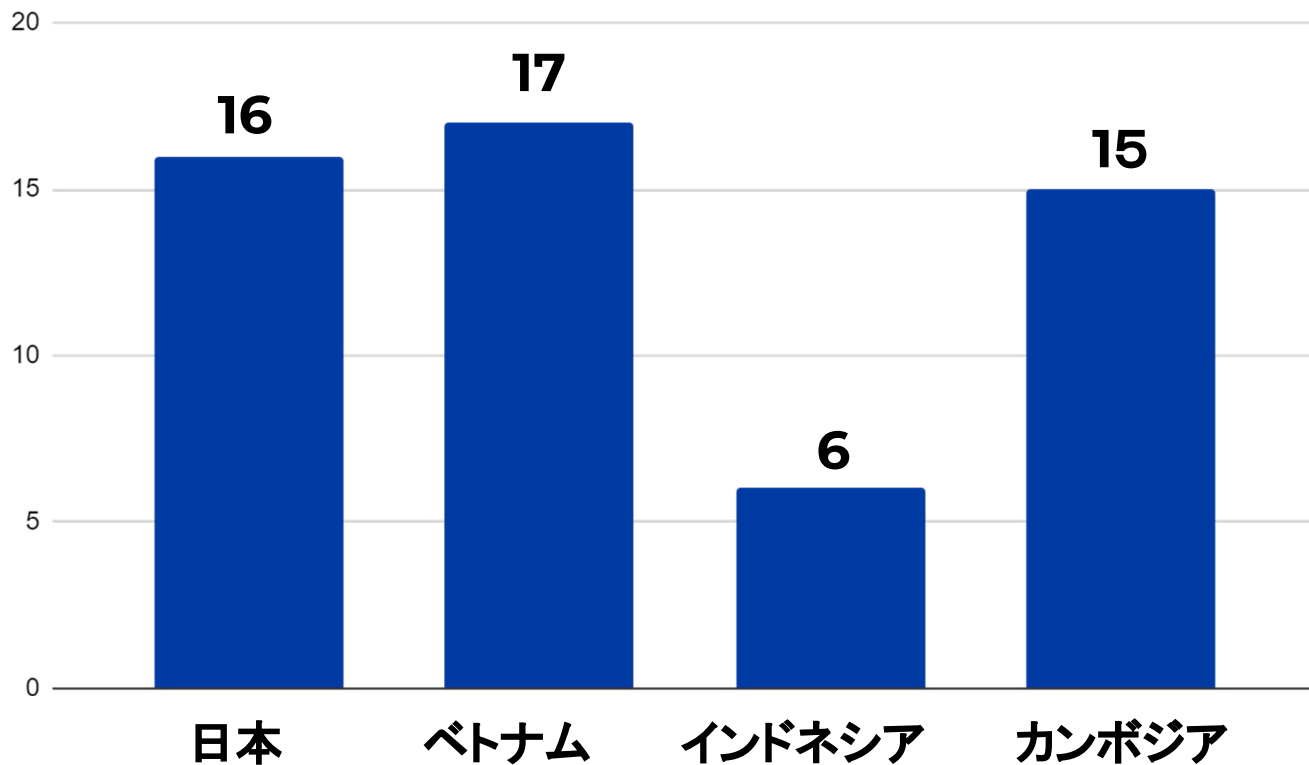
7段階の回答を以下の通りにスコア化して、合計を比較する
合計の数値が高い程、人生満足度尺度が高い

「強く同意しない」	→1
「同意しない」	→2
「わずか同意しない」	→3
「どちらでもない」	→4
「わずかに同意する」	→5
「同意する」	→6
「強く同意する」	→7

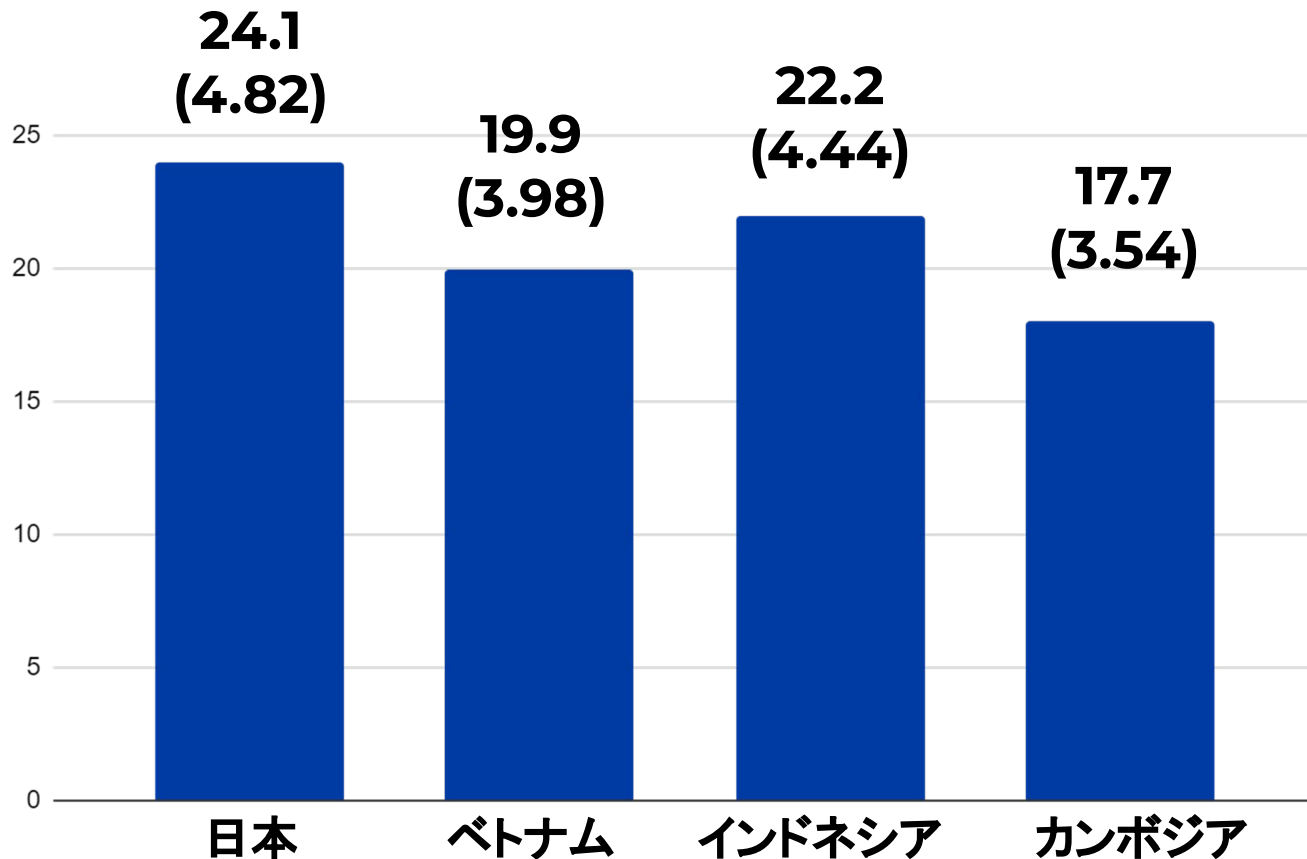


5. 調査結果

5-1. 得られた回答数

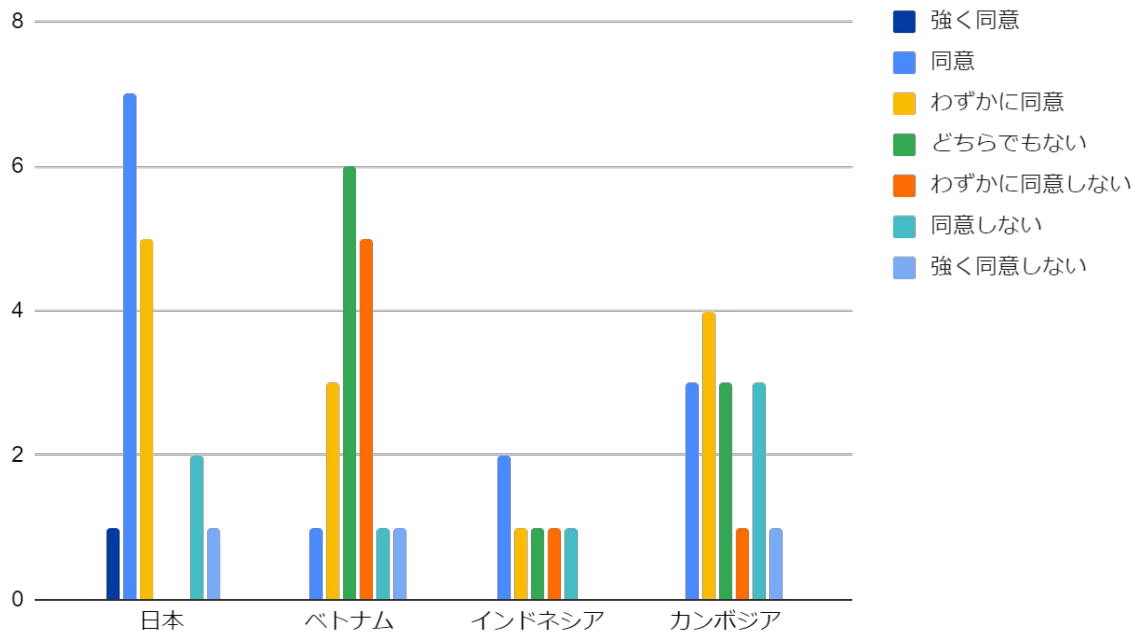


5-2. 各国のスコア(1項目あたりの平均)



5-3. 各国のスコア

1. ほとんどの面で私の人生は私の理想に近い。



日本 4.94

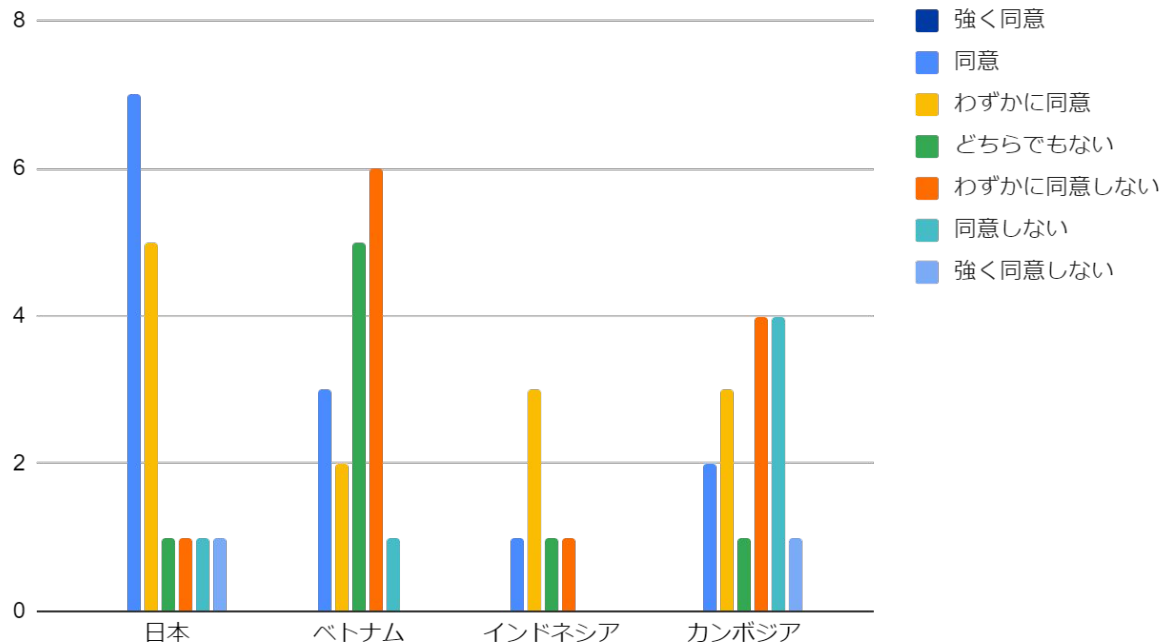
ベトナム 3.71

インドネシア 4.33

カンボジア 4.00

5-4. 各国のスコア

2. 私の人生の状態は優れている。



日本 4.81

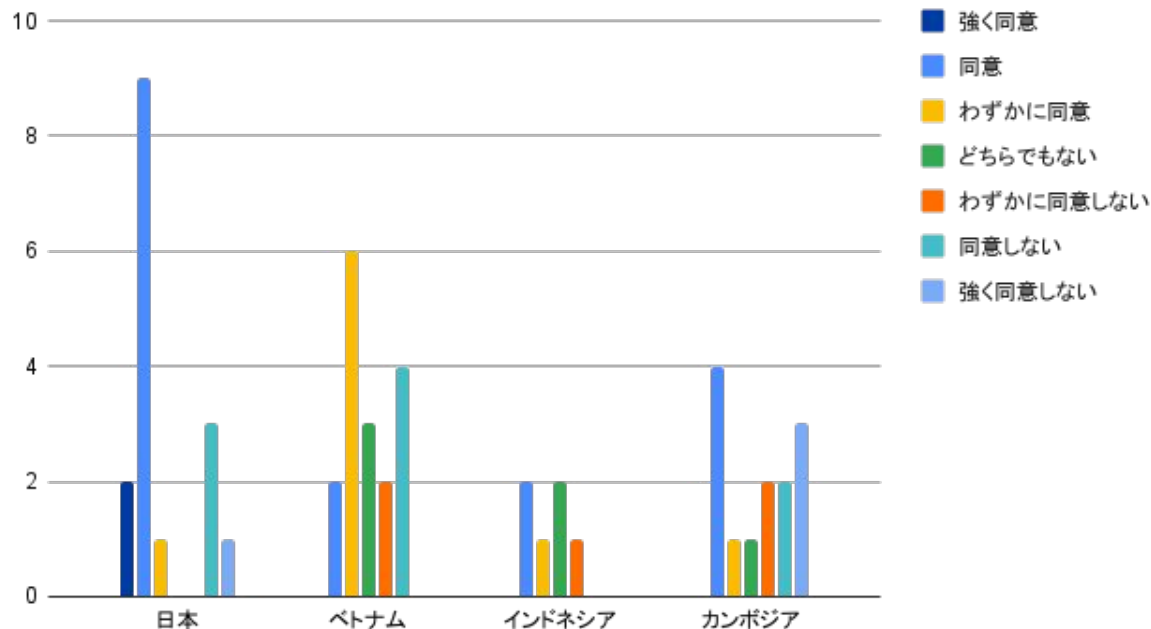
ベトナム 4.00

インドネシア 4.67

カンボジア 3.47

5-5. 各国のスコア

3. 私は自分の人生に満足している。



日本 5.00

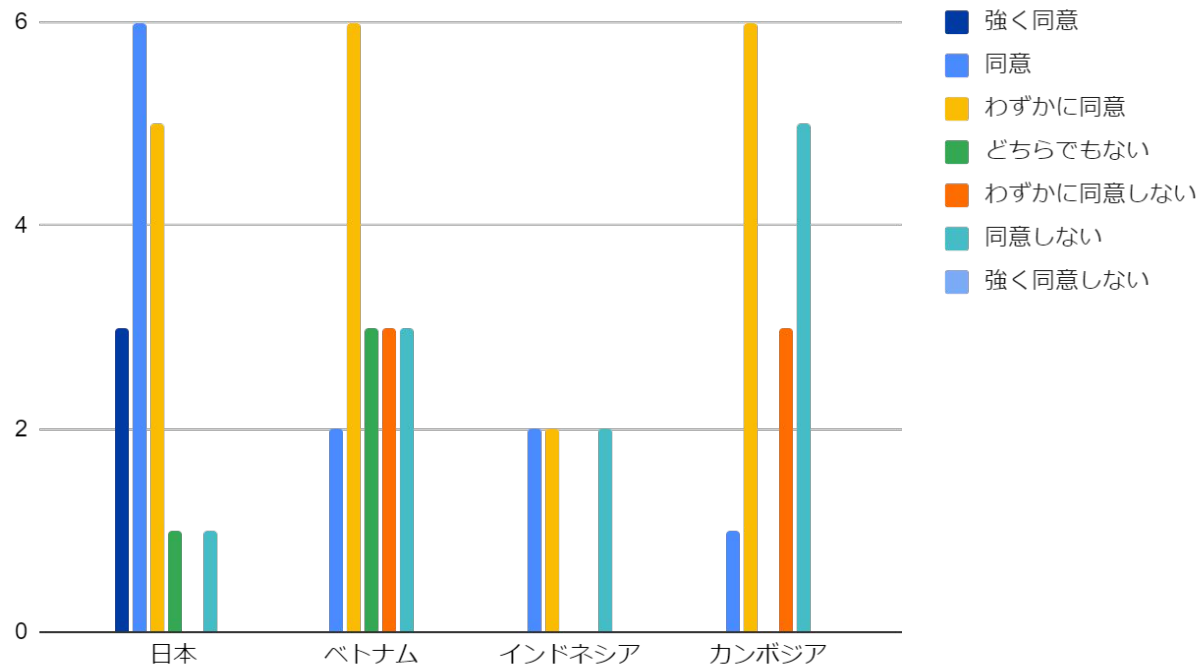
ベトナム 4.00

インドネシア 4.67

カンボジア 4.00

5-6. 各国のスコア

4. 私が人生に求める大切なものはこれまでに得てきた。



日本 5.50

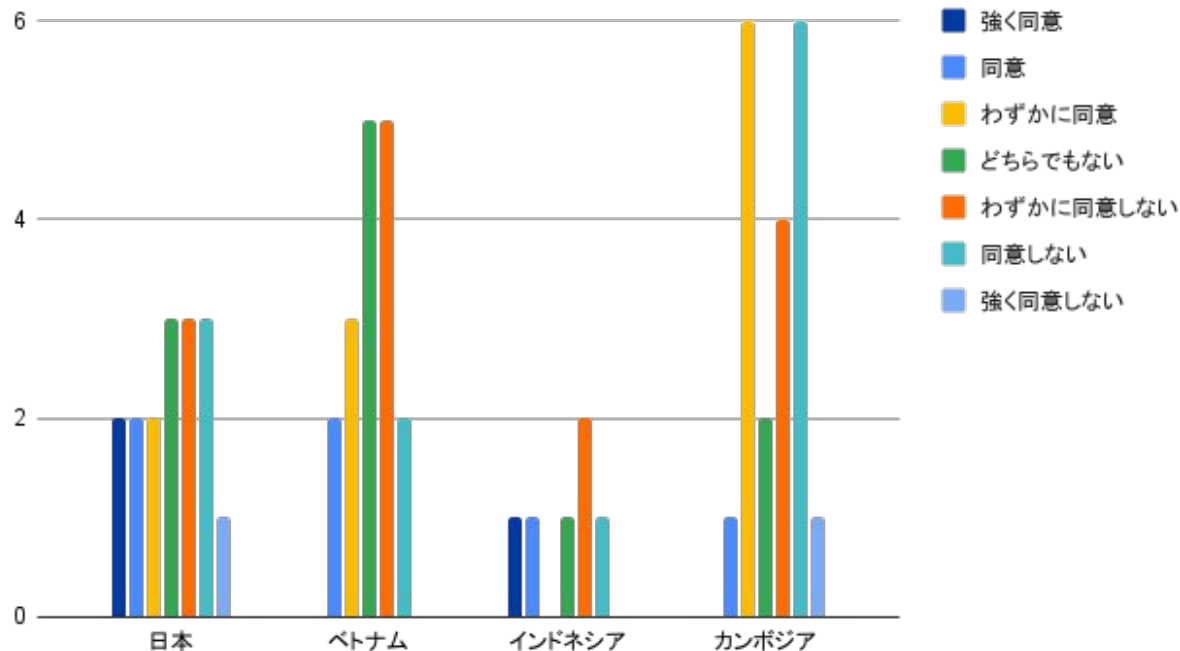
ベトナム 4.06

インドネシア 4.33

カンボジア 3.67

5-7. 各国のスコア

5. もう一度人生をやり直すとしても、ほとんど何も変えようと思わないだろう。



日本 4.00

ベトナム 3.89

インドネシア 4.17

カンボジア 2.93



6. 考察

6-1. 結果の分析

調査結果は日本＞インドネシア＞ベトナム＞カンボジア

理由

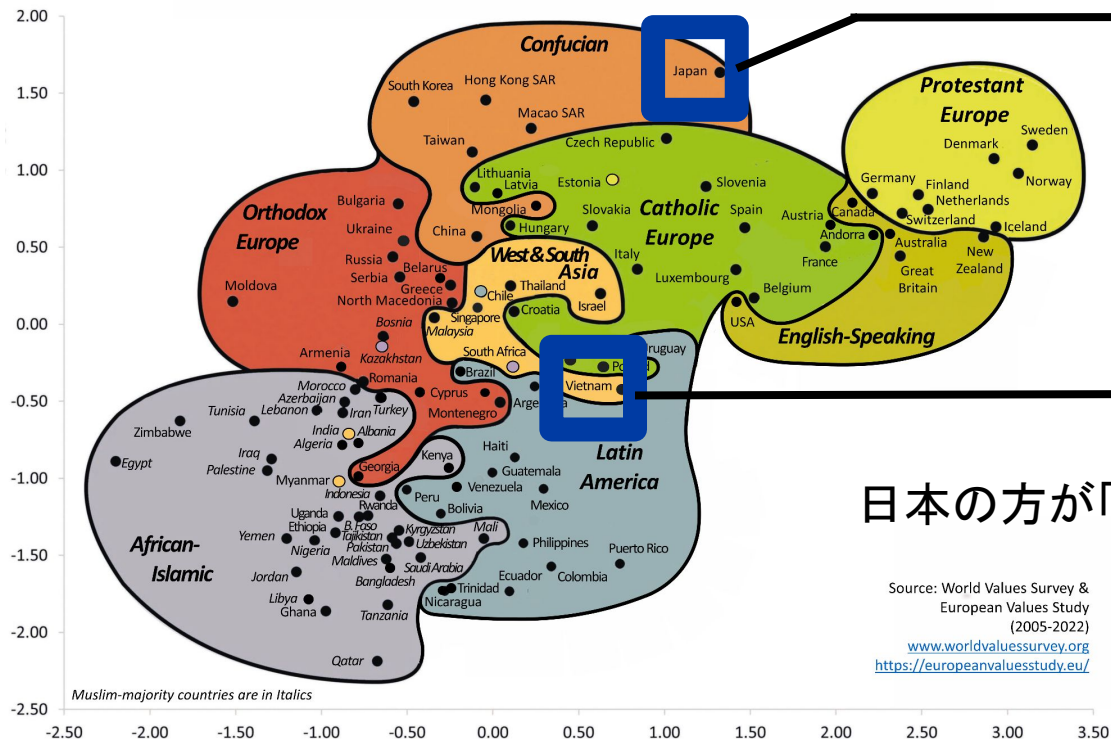
その国が「**個人主義**」か「**集団主義**」と、
「**生存価値**」か「**自己表現価値**」のどちらを
重視するのかが結果に大きく関係している

6-2. インゲルハート・ヴィルゼル文化地図

The Inglehart-Welzel World Cultural Map 2022

日本

世俗的 / 伝統的



ベトナム

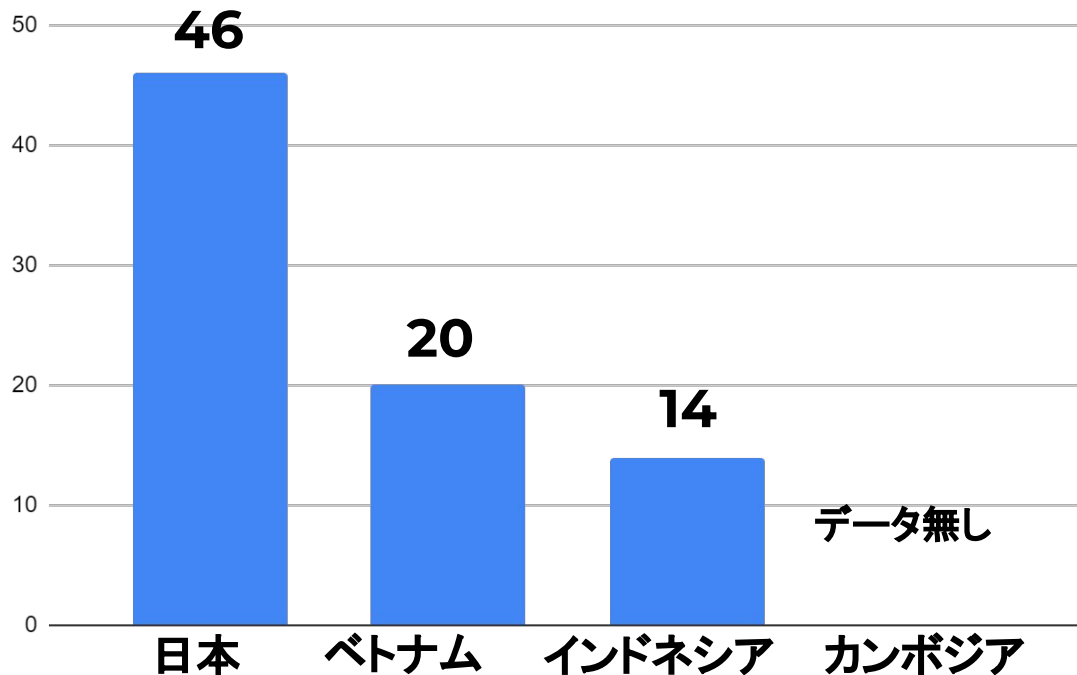
日本の方が「自己表現価値」が高い

Source: World Values Survey &
European Values Study
(2005-2022)
www.worldvaluessurvey.org
<https://europeanvaluesstudy.eu/>

生存価値/自己表現価値 (引用: <https://www.worldvaluessurvey.org/WVSNewsShow.jsp?ID=428>)

6-3. ホフステッド指数

個人主義の数値(高いほど個人主義)



(引用: [国別比較 - ホフステッドインサイト\(hofstede-insights.com\)](https://hofstede-insights.com))

6-4.仮説との違いについて

2つの指標を元に予測すると

日本 > ベトナム > インドネシア > カンボジア

結果は

日本 > インドネシア > ベトナム > カンボジア

インドネシアとベトナムのスコアの順位はなぜ違うのか？

6-5. 仮説との違いについて

考察

- ①ホフステッド指数の「個人主義」か「集団主義」のみで判断
→個人主義の項目以外の全ての数値で、インドネシア>ベトナム
先行研究で取り上げていない側面が関係している
- ②数値が近い国同士で共通点がある
日本、インドネシア→長期主義（遠い未来の利益を優先する）
ベトナム、カンボジア→上下関係が厳しい
- ③インドネシアの調査数が特に少なかった



7. 結論

結論

「今回調査した中では、日本人学生は人生に満足している」

- ・人生満足感尺度は個人によって違うものの、国の文化に大きく影響される。
- ・インドネシアとベトナムのパラドックスも文化によるものである と考えられる。
- ・ウェルビーイングが一人ひとりで異なる為、絶対的な定義は存在しないのではないか

反省点

- ・年齢と性別が意図的では無かった。

→男女共学の大学に調査対象を絞る、年齢制限を設ける等

- ・回答数が少なかった。

→他大学への依頼、調査対象の変更等

これらには研究結果が偏るなどのリスクも十分存在するため、検討が必要

文献一覽(1)

- ・Ed Diener, Peter Kuppens, Anu Realo. "The Role of Positive and Negative Emotions in Life Satisfaction Judgment Across Nations"
<https://scottbarrykaufman.com/wp-content/uploads/2019/01/Kuppens-et-al.-2008.pdf> (参照2022-11-20)
- ・Ed Diener "Review of the Satisfaction With Life Scale" [The-Satisfaction-With-Life-Scale.pdf \(researchgate.net\)](https://www.researchgate.net/publication/228283626_The-Satisfaction-With-Life-Scale.pdf)
(参照2022-10-1)
- ・佐々木健吾 "行動や習慣が主観的幸福度に与える影響" [佐々木健吾.indd \(ngu.ac.jp\)](http://www.ngu.ac.jp/~kengo/teaching/2019/01/20190101_01.pdf) (参照2022-11-25)
- ・山田凌、鈴木美緒、屋井鉄雄. "東南アジア諸国における個人の価値観が生活行動へ与える影響の考察" http://library.jsce.or.jp/jsce/open/00039/201411_no50/pdf/249.pdf, (参照2022-11-20)
- ・「ホフステッド指数」 <https://www.hofstede-insights.com/country-comparison/japan/> (参照2022-11-20)
- ・「イングルハート・ヴィルセル文化地図」 <https://www.worldvaluessurvey.org/WVSNewsShow.jsp?ID=428>

(参照2022-11-20)

文献一覧(2)

- ・マーティン・セリグマン作「ポジティブ心理学の挑戦」大日本印刷株式会社（2014年）
- ・鶴見哲也、藤井秀道、馬奈木俊介 共著「幸福の測定」中央経済株式会社（2021年）
- ・内田由紀子「これからの幸福について」新曜社（2020年）
- ・前野隆司、前野マドカマドカ 共著「ウェルビーイング」株式会社日経 BP（2022年）
- ・渡邊淳司、ドミニク・チェン他「わたしたちのウェルビーイングをつくりあうために」 BNN新社（2020年）
- ・ラファエルA.カルボ、ドリアン・ピーターズ「ウェルビーイングの設計論」 BNN新社（2017年）

ご清聴
ありがとうございました

オープンゼミを開催します！

【日時】 12月20日（火） 4限限（14:40～）

【場所】 E301教室（5号館3階）

- ・関ゼミ生に直接質問できる！
- ・関ゼミを体験できる！
- ・海外ゼミ研修についてもお話します！

ぜひ、気軽にお越し下さい！

URL一覧 ぜひご覧ください！



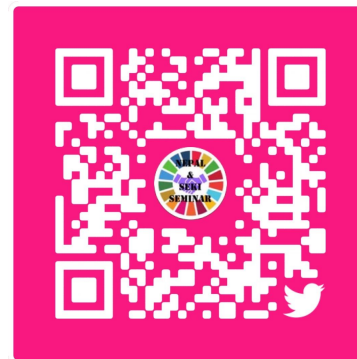
ブログ



Instagram



ホームページ



Twitter